

式辞

本日、ウグイスが谷を飛び立ち、大きな木に向かっていくがごとく、いよいよ鶯遷（おうせん）の時を迎えられました。

星城大学 経営学部

239名、

リハビリテーション学部

73名、

大学院 健康支援学研究所 修士課程

7名、

の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

留学生別科 日本語日本文化課程

15名

の皆さん、修了おめでとうございます。

そして、本学の教職員および関係者の皆様には、学生教育のために学内外を問わず、ご献身を頂き、また、学生の成長を支え、学生とともにキャンパスを盛り立てて頂きました。皆さまのおかげで、無事に本日を迎えることができました。

保護者の皆さまには、ご息女ご子息のご卒業を心よりお祝い申し上げます。常日頃から本学の教育研究の取組みへのご理解とご協力、ご支援を頂きありがとうございます。

ました。

さらに、本日はご来賓として、

学校法人名古屋石田学園 理事長 石田正城 様

衆議院議員 復興大臣 いとう ただひこ 夫人

東海市 副市長 ほしかわ いさお 様

知多市 副市長 たちかわ たいぞう 様

愛知県議会 議員 しま たかのり 様

星城大学後援会 会長 でぐち かつみ 様

星城大学同窓会 会長 かしわぎ かつとも 様

学校法人名古屋石田学園 理事 たにぐち まさあき 様

また、本学をご退職された先生方をはじめ、

ご来賓のご来駕（らいが）を賜っております。

衷心（ちゅうしん）より御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、お座りください。

2021年度の春、コロナ禍の真ただ中に皆さんは本学に入学されました。感染防止対策のための行動制限の下、文科省からの通達を受ける形で、ほぼ全ての講義がオンライン化されていました。また、部活動をはじめとした学生生活についても、様々な制約がありました。

2021年は東日本大震災からちょうど10年の節目の年でもありました。

震災が発生した2011年当時、本学の学生たちが、地元企業である現・日本製鉄さんの体育館で、生活物資支援の作業にボランティアとして参加していた、頼もしい姿を思い出す年でした。

翌年の2022年度からは行動制限が緩やかになっていきました。講義もオンライン方式から対面方式へ戻りました。部活動やサークル活動が再開し、また、学生会をはじめとした学生の皆さんの取組みが大きな力となって、様々な学内行事が再び動き始めました。

その後は学生生活の様子も賑やかに学生ボランティア活動も増えていきました。

例えば一例ではありますが、こども食堂の企画や、災害被災地での復興ボランティア活動など、本学の学生たちが「自分づくり」の成果を発揮し、「人のために、そして、社会のために」自分の力を発揮する姿勢を見て、とても心強く感じました。

星城大学の建学の精神は「彼我一体」ですが、本学での大学生活の4年間、「自分づくり」という言葉を幾度となく聞いたと思います。

この「自分づくり」という言葉は、本学の創立者が建学の精神をまとめたときの言葉である、

「日々に新たなる“我”を磨き上げ造っていく」
が語源になっています。

「夢の実現のために、自分を磨き続け、自分を造り上げる。そして、造り上げた力によって、これまで多くの人から受けてきた恩に感謝し、社会に恩返しのできる人となる。」ことを目指す言葉です。

そのために皆さんは、星城大学で、知識のみならず、知識の使い方を学び、身に付け、日々「自分づくり」に励んできました。

そして、本日、学位授与式を迎え、明日からは新しい社会生活が待っています。

ただし、皆さんの自分づくりは、社会に出てからが本番になります。これからも、日々に新たなる“自分”を磨き続け、造り上げて行って頂きたい。

そして、皆さんが互いに力を合わせ、団体・企業・病院で共に活躍し、地域が発展する。ひいては、そこに住まう家族が豊かに、そして豊かで平和な日本が、世界の国々とともに発展していく。

そんな幸せにあふれる未来の社会を思い描き、そんな未来の社会を創造してくれることを期待しています。

「未来の社会を思い描く」と聞いて、みなさんは、どのような風景を思い描くのでしょうか？

皆さんが星城大学に入学をしたときの学長である赤岡先生は、茨木のり子さんの詩を引用して、牧歌的な風景

で豊かな社会を表現していました。

どこかに美しい村はないか
一日の仕事の終わりには一杯の黒麦酒
鍬を立てかけ 籠を置き
男も女も大きなジョッキをかたむける
どこかに美しい街はないか
食べられる実をつけた街路樹が
どこまでも続き すみれいろした夕暮は
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる
どこかに美しい人と人との力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさとそうして怒りが
鋭い力となって たちあらわれる

豊かな村、豊かな街、そしてそこに住まう豊かな人々
のある、幸せにあふれる風景ですね。

みなさんは、「未来の社会」に、どのような風景を想い描

くのでしょうか？

最後になりますが、

この4年間、先生や事務職員の皆さんは、ある面では厳しく、ある面では熱心に細やかに、皆さんと接し、大
学生生活を共にしてきました。

ふと、大学のことを思い出したり、大学の近くに来る機会があれば、ぜひ、大学に立ち寄って、その時、その時の皆さんのお話しを聞かせてください。それは嬉しい話でも、楽しい話でも、困りごとの話でも、日々の苦労の話でも、何でも構いません。

実は、そんな皆さんの卒業後の活躍や様子を垣間見れることが、私たち大学スタッフにとって、何よりも有難く、何よりもうれしい瞬間になるのです。

また近々、皆さんに会えることを楽しみにしています。

さあ、本日がみなさんの出発の日、旅立ちの日です。鶯遷（おうせん）の時です。

これから一生「自分づくり」に励み、

「未来の社会に、そして、沢山の人々に、幸せを振りまくことのできる人生」

これを造り上げていってください。

卒業おめでとう。

2025年3月20日

星城大学

学長

石田隆城